

登録コード	MA750200	開講年度	2026				
授業科目名	病態血液検査学特論					担当教員	松田 和之 他
英文授業名	Special Lectures in Clinical Laboratory Hematology					副担当	平 千明・新井 慎平
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	金曜・ 5 時限 金曜・ 6 時限	対象専攻 / 学年	病因・病態検査学領域 / 1 年次
講義室	保健学科 2 2 2 講義室		授業形態	講義	授業科目区分	選択科目	
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	【ディプロマ・ポリシー】授業で得られる「学位授与の方針」要素						
	MS 2 6 カリ(保健学), MS 2 5 カリ(保健学), MS 2 4 カリ(保健学), MS 2 3 カリ(保健学)						
	【保健学】高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。					血液検査の現状を深く理解し、諸課題に対する解決法を提案できる。	
(2)授業の概要	血液は常に流動性を保ちながら血管を通じて全身を限なく循環し、種々の生理的機能を営みながら生命を維持するための重要な役割を担っている。 その構成成分は病態を反映して変化し、臨床的に重要な様々な情報を提供する。 本特論では、血液腫瘍性疾患や血栓止血異常症ならびに血漿蛋白異常症の分子生物学的検査法および病態解析法を教授し、それらの臨床的意義の理解を深める。 また、血液悪性疾患、血栓止血異常症、血漿蛋白異常症に関する診断価値の高い検査法を確立するため、検査技術の改良や開発の能力を育成する。						
(3)達成目標（一般学習目標 G I O ）	血液腫瘍性疾患、遺伝性血栓止血異常症ならびに血漿蛋白異常症について、異常を呈するメカニズムを解明する手順を通して、基礎的な分子生物学的研究の進めことができるようになる。						
(4)達成目標（個別行動目標 S B O s ）	血液腫瘍性疾患の分子異常と増殖機構を理解し、異常を検出するための遺伝子解析ができる。 その異常に基づく細胞の変化を蛋白レベルで検討できる。						
(5)授業計画	第1回 10月2日 オリエンテーション 第2-5回 10月9日-10月30日 血液腫瘍の遺伝子異常とがんゲノムプロファイリング検査 （松田） 第6-10回 11月6日-12月11日 血液疾患検出のための分子生物学的手法を用いた検査法構築および臨床応用について （平） 第11-15回 12月18日-1月22日 血栓止血異常の遺伝子異常と機能解析法について（新井）						
(6)授業の進め方	論文，プリント，スライドによる講義と討論を行う。						
(7)履修上の注意・事前事後学習の内容	配付資料（論文）を事前に読み、概略を理解する、また、疑問点をあげておく。						
(8)成績評価の方法	提出したレポート・授業時間中の討論内容から総合的に評価する。						
(9)成績評価の基準	討論における用語の適切さ、説明内容の論理的妥当性などを指標として、講義内容の範囲での、最低限の解答内容であれば、「水準にある（可）」、ほぼ適切な解答であれば、「やや上にある（良）」、十分に適切な解答内容であれば「かなり上にある（優）」、該当範囲を超えて自身で能動的に学習した詳細な解答内容であれば「卓越している（秀）」と評価する。 レポートに関しては、(i) 問題の設定が適切である。 , (ii) その問題の背景を説明できている。(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できている。(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できている。(v) その上で自分の見解を提示できている。(vi) 教員を感心させるレベルにある。(i)から(vi)の6項目を満たしていれば「卓越している（秀）」。(i) から (v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある（優）」、4項目までできていれば「やや上にある（良）」、3項目までできていれば「合格水準にある（可）」と評価する。						
(10)学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	随時，質問を受け付ける。 個別の相談は，研究室で対応する。 オフィスアワー;松田、平、新井とも随時対応。事前にメールにて連絡すること。 松田; kmatsuda@shinshu-u.ac.jp 平; tairacha@shinshu-u.ac.jp 新井; arais@shinshu-u.ac.jp						
【テキスト，教材，参考書】	特に指定しない。						